

台湾の国際環境と日台関係

拓殖大学 学長 渡辺 利夫氏

今日、台湾問題として論じられるべきは、当然ながら中台関係についてであります。これは実に微妙で複雑な関係。どうも日本人にはわかりにくいテーマです。

中国が大変な勢いで経済力と軍事力を膨張させています。他方、台湾では民主主義が定着し、人々の「本土意識」といいますか、要するに「台湾人アイデンティティー」、これがますます強化されております。

そんな次第で両者の和解は、かつてより一段と難しくなっているのではないかというのが私の認識であります。さて中国は台湾にどういう立場でどういう対応をしようとしているのでしょうか。中国の立場は実にはっきりしておられます。要するに「二つの中国」原則です。一つには、中国は一つであるということ。二つには、中華人民共和国政府が中国を代表する唯一の合法的な政府であること。三つには、台湾は中華人民共和国の領土の不可分の一部であるというものです。

「台湾統一」はすなわち「祖国統一」であり、台湾の独立は絶対にこれを許さないというのが中国の主張です。



英九さんは「地域と地域の関係」であると言っています。併せて「統一せず・独立せず・武力を用いず」と

言っているわけです。

台湾にはすでに民主主義が完全に根付いておりました。民進党、国民党と政権政党は変転しましたが、これらを大切な価値理念として持っていることについては

疑いようがありません。

かつて交流協会の台北事務所代表を務められた池田維さんが最近台湾の現状についての見事な著書を書いておられます。この本の中

に象徴的な一つのエピソードが出ておりました。

陳水扁さんの娘婿がインサイダー取引で起訴される

という事件がありました。

この事を聞いたある中国人が次のようなコメントをしました。

「中国では想像もできない」「台湾の民主主義は素晴らしい」と言ったそ

うであります。

台湾において民主主義が定着していることは何度も強調されねばなりません。つまりこのことは台湾の将来を決定するものが他の誰でもなく2300万人の台湾の人々の意思そのものであることを意味しているわけですから。もう一つ、主張しておかなくてはならないのが、台湾の人々が民主主義のもとで自由に発言しが、台湾の人々の「台湾人アイデンティティー」だ

注目すべきことは、それにもかかわらず台湾独立を志向する人々の数は圧倒的に少ないという事実です。

約90%の人々が「現状維持」を志向しております。

現状維持志向というのは国

民党であれ民進党であれ、この点について言う限り両者の間に志向性の違いはないのです。

民主党のもとで台湾の

かつ台湾の現状を変更するいかなる勢力をも支持しないことです。台湾の人々の強固な意志が台湾を守る「最強の武器」なのでしょうが、いかと私は考えます。

今後の日台関係について言いますと、私は日本が台湾に対しても積極的な対応をなすべきだと考えてお

ります。一つには日台間で

F T A 自由貿易協定、もしくは E P A 経済連携協定を締結する努力が必要だといふことです。台湾は一つの

独立した「関税地域」です。ですから W T O 加盟などと同様に台湾が日本と

F T A 、 E P A について協議し締結することに国際法上の障害は何もありません。

もう一つは、台湾を含む東アジアの安全を保障するた

めに、日本はより踏み込んだ政策を追求しなければならないということです。日米同盟の役割は現在決定的な重

要性を持つております。しかし現在の日米同盟は日本側の不作為により、か

つてのようにならぬものではありません。

アジアの安全を保障するた

めに、日本はより踏み込んだ政策を追求しなければならぬということです。日米同盟が東アジアにおける

「公共財」であるというスローガンは絵に描いた餅に終わらざるをせません。

2005年2月に日米安保協議会、2プラス2とい

う名前で知られておりました

が、ここで台湾海峡問題の平和的解決が日米双方の

「共通戦略目標」であるこ

とを、極めてはっきりとできぬ以上、これも有効な戦略目標にならないのではないかと私は考えてお

平成23年10月3日 産経新聞より

972年9月には日中共同声明が発表されました。

私が個人としましてはどう

してこういうことになつてしまつたのかと、慙愧の思

いをぬぐうことはできません。

た、中国は一つである、さ

らに中華人民共和国政府が

中国を代表する唯一の合法

政府であることを認めてし

まつたのです。

しかし、一つ留意しておいてほしいことがあります。日本につきましては、中国の主張でありますところの「台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部である」という部分は、それ

を「理解し尊重する」といふ態度を堅持しています。

この点に関する中国の主張

を日本が公的にあるいは法

的に認めたということはな

いのであります。

次に台湾の人々の考え方を見ておきたいと思います。

中台問題を台湾の人々がどのように認識しているか、その認識に沿ってどのように行動しているかについてであります。今日では台湾が中國とその存在の「正統性」を競い合うという時代からはるかに隔たっております。

そして台湾の人々は台湾の「現状維持」の路線を固めています。

こうした台湾の世論を反映しまして、かつて李登輝さんは「中国と台湾は特殊な国と国との関係である」と言いました。それから陳水扁さんは「台湾海峡の両岸には別々の国がある」と言いました。さらに今の馬

いいます。

この馬さんは「中国と台湾は特殊な国と国との関係である」と

と言いました。それから陳水扁さんは「台湾海峡の両

岸には別々の国がある」と

されました。そして翌1